

スポット調査に対する委員からのご意見

共通 ・スポット一覧の Excel シートには、最新調査による群落や貴重種の確認状況や特記事項を記入していただいた方が理解しやすい。	＊
No. 49 ・「希少種のオオオニバスが生育していた」という記述は大きな間違い。	「オニバス」に修正します。
No. 50 ・地形の評価が変わることに違和感がある。総合評価が A に変更されているが、ほかの A の箇所と遜色ないか比較も必要。 ・アリドウシ、イカリカズラという植物はない（アリドオシ、イタビカズラ）。	＊ 「アリドオシ、イタビカズラ」に修正します。
No. 52 大岩ヶ岳周辺 ・ニホンジカによる植生への影響が出始めており、ナラ枯れも進んでいるが、その状況が報告されていない点が気になる。 ・クマシデは間違いはないか。	＊ 「アカシデ」ではないかと考えます。 (宝塚市自然調査植物・動物リストより)
No. 53 丸山湿原 ・ニホンジカによる影響が懸念されるがどうか。	＊
No. 58 芝辻湿原 ・宝塚市史にも記載されていた貴重な自然としては、劣化が深刻であり、保全が急がれる。	＊
No. 63 溪谷 ・ツメレンゲなどが確認されたことを踏まえて植物の評価点が上げられているが、過去に確認されていたアオネカズラ（より貴重性が高い）は確認されていないのか。ツメレンゲは武庫川峡谷とその周辺にふつうに見られる種であり、イワタバコも過去に記録があるため、評価点を上げるほどではない。アオネカズラは県内分布が少なく、モニタリングの必要性が高い。 ・Excel シートの「貴重な植物」にサツキがあげられているが、個票には見当たらない。情報源は何か。	＊ 「サツキ」は入力ミスです。削除します。 (No. 64 武田尾溪谷の標記を入力したものと考えられます)
No. 67 保与谷池湿原 ・「この谷は丸山湿原と同じ経過で湿原となった。」と書かれているが、どういうことか。 ・写真では、植生遷移や乾燥化が進んでいるように見られる。公園として管理されているとのことだが、丸山湿原のように刈り取りや除伐などがなされているのか。	＊ ＊
No. 80 惣川 ・溪流環境であるため、ミズカマキリの確認でランクを上げてよいのか要検討。	＊

No.82 弁天池 ・過去の調査ではランク 3 と評価されているのは、カワセミが確認されていたからか？もしくは冬鳥の生息地として重要であったからか？今回の調査では冬の調査がされていないので、過去の経緯を確認したうえで、ランクの再検討（3 でよいのか判断）が必要では。	＊
No.83 伊和志津神社 ・保護樹林として保全されているとあるが、近年の空中写真を確認すると、林冠木の伐採や一部改変の様子が認められる。管理上必要な伐採もあると考えられるが、保護樹林であれば経緯の確認などが必要（近年の環境審議会では諮られていないが・・）	＊
No.86 住吉神社 ・個票に記載されている過去の評価点が間違っているの、植生を 3、動物は 1 のままでよいのでは。	植生を 3、動物は 1 のままとします。
No.89 波豆川 ・河川工事にともなう人工護岸化・河床コンクリート化による景観変化や生息環境の劣化をきちんと評価すべきである。ゴキヅルは改変跡などにも侵入しやすい種であり、評価点が大きくなっていることに違和感がある。	＊
No.90 佐曽利川 ・過去の評価ポイントである「ゲンジボタル多産」についてはどうなのか。	＊
No.92 玉瀬側 ・No.89 及び No.90 と同様。河川工事による劣化を Excel シートによる特記に取り上げるべき。	＊
No.103 放棄水田 ・過去の評価ポイントである「ドジョウ、モリアオガエル、カツラネクイハムシ」がまったく見られないのであれば、動物の点は「1」でもよいのでは。 ・重要な生態系の消失という整理でもよい（植物相は豊富であり、耕作地として維持されることは良いことでもある）。	＊ ＊
No.104 川下川 ・「オオタカ、サシバ、ミサゴの移動」と書かれているが、このエリアには繁殖地もあるのでは？過去には繁殖地として評価されていたということはないか。	＊
No.105 坊川 ・過去の動物の記録「サシバ、オオタカ、キビタキ、カジカガエル、ナガレホトケドジョウ、ゲンジボタル多産」の現況はどうか。 ・工事にともなう改変による劣化について取り上	＊

げておく必要あり。植生の評価点は下げなくてよい。	
No.108 立合新田川 ・植物の評価点が高くなっているのはなぜか。 ・地形の評価点に変化している点に違和感がある。近年の里地里山の環境変化の中で、良好な景観が維持されていることは重要、という意味で景観のポイントが高くなるのであれば理解できる。 ・過去は「ダルマガエル、モリアオガエル、イモリ、シュレーゲルアオガエル、ゲンジボタル多産」が評価されているが、調査結果にはほとんどあがっていない。動物の評価点が3のままでよい。 ・サシバ、オオタカなどの記述は、観察記録ではないと思われるが。	* * * 「サシバ、オオタカなど」の記述は削除します。
No.118 塩谷川左岸 ・個票に記載されている改変に加え、右岸側の斜面が防災工事により大きく改変されている。その点も踏まえて、改変による劣化が進行していることを評価しておく必要がある。	*
No.123 ため池及び畦 ・過去の記録では、「グンバイトンボ、オオムラサキ、ウラキンシジミ、オオミドリシジミ、ウラナミアカシジミ、スジボソヤマキチョウ」と非常に貴重な種が多数確認され、動物の評価点が3とされているが、今回の調査では確認されていない。調査時期の問題もあるかもしれないが、このような評価でよいのか要検討。	*
No.133 ため池 ・樹林側の遷移進行による影響が生じている可能性がある（第2の危機）。 ・水質は問題ないと評価されているが、天水によって涵養されているため池としては、電気伝導度の値が大きいのではない。	* *
No.134 足洗川 ・過去の情報（Excelシート）によると、「湿原が点在」しており、貴重種であるノハナショウブが生育している点が評価されているが、個票にはその状況がまったく認められない。植生遷移により消失した可能性がある。 ・動物種としても、過去には「ルリビタキ、カジカガエル、オジロサナエ、アオサナエ、オオアメンボ」が記録されているが、これらの記録はない。調査時期の影響で確認されなかっただけなのか、環境変化により見られなくなったのか不明。 ・コジイ-カナメモチ群集は自然植生である。ここは二次林と推測されるため、シイの優占林であれば「コジイ群落」などとしておくのがよい。	* * 「コジイ群落」に修正します。